

議会広報広聴委員会記録

令和8年4月8日（水）
午前9時00分～11時15分
第4委員会室

【出席者】大谷委員長、岡山副委員長、
西田一平委員、今田委員、遠藤委員、花田委員、戸津川委員、沖田委員、
笹田委員、岡本委員

【委員外議員】森谷議員

【事務局】下間局長、濱見書記、村山主任主事

議題

1 はまだ議会だよりVol. 81の編集について……………資料1

(1) 校正作業

ページ	担当委員	記事
1-5	戸津川委員 岡本委員	表紙、ポイント、注目事業と着眼点、議案の賛否、議会報告会のお知らせ、個人一般質問（3名）
6-9	西田委員 花田委員	個人一般質問（16名）
10-13	沖田委員 笹田委員	個人一般質問（2名）、ぎかいポスト、まるよみ、議会用語Q&A、市民対談
14-16	今田委員 遠藤委員	委員会活動レポート、あとがきほか

(2) その他

2 地域井戸端会について……………資料3

(1) 準備物、段取り

(2) その他

3 その他

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[9 時 00 分 開議]

○大谷委員長

出席委員は8名で定足数に達しているなので、これより会議を始める。
なお、花田委員と岡本委員は若干遅れるとの連絡が入っている。

1 はまだ議会だよりVol. 81の編集について

(1) 校正作業

○大谷委員長

まず事務局の方から状況について報告を求める。

○濱見書記

この4月から議会広報広聴委員会の書記を担当することになった濱見である。よろしく願います。

はまだ議会だよりの紙面（案）を、先日、Side Booksで展開しているが、受託業者が入札によって変わったため、これまでと大きくデザインなどが変わった。

今日は、事前に議会事務局でチェックをして赤字で示しているものを基に、各委員に確認をしてもらい修正をしていきたい。

○大谷委員長

それでは、前回の議会広報広聴委員会の中で各ページの担当を決めており、それに基づき校正作業を進めていく。

(以下、校正作業)

○遠藤委員

森谷議員のところだが、「バカなことを言わないで、市民に答えることの方が重要な仕事だ」とあるが、「バカ」という言葉が入ること自体はいいのか。

○大谷委員長

そもそも、このイラストを入れた形式は、Q&Aというルールから外れている。前回は森谷議員の希望を踏まえてイラストのみとした。その後、市民から批判の投書や声が届いており、今後どう対応するか議論しておく必要がある。

私が受けたのは、「公金を使ってこのような内容を出すことは何事か」との内容、議長も「同じようなことをしてもらいたくない」との声を受けたと聞いている。他の議員も批判を受けていると聞いており、皆も承知していると思う。

したがって、今後は、どう対応するか検討しておく必要がある。

[9 時 27 分 休憩]

[9 時 32 分 再開]

○大谷委員長

では、前は森谷議員の希望に沿って対応したが、市民から批判があったことを踏まえ、今後はQ&Aの形に統一するべきだと考えるがいかがか。

○笹田委員

私も、ちゃんとルールを決めて掲載すべきだと思う。委員会でしっかりしたルールを決めて対応すべきである。

○今田委員

はまだ議会だよりの原稿を各議員に依頼する際、これまで、ルールが決められていなかった。今回のことで再度精査し、次回の依頼ではルールを示す必要がある。

今回、遠藤委員が言われたように「バカ」をどうするか議論も必要である。「バカ」がないと伝わらないという話なのか。私は「バカ」は削除するべきと考える。

○大谷委員長

全体のバランスも考えながら、Q&Aの形に統一することで良いか。

(「はい」という声あり)

では、そのように統一する。

○笹田委員

イラストについても決めておくべきである。昔は写真を乗せる場合もあったが、今は文字数が決まっている中、皆短く整理して書いている。このイラストは、個人名は特定されないがある程度予測できるものである。

(以下、校正作業)

○笹田委員

先ほど決まった一般質問のコーナーのルールだが、森谷議員に伝えて原稿を依頼し、もしも書かないという場合、対応を考えてほしい。その場合、委員会の責任で書くのか、載せないのか。私は、委員会で手を入れてでも出すべきだと思う。後の対応について協議が必要である。

○大谷委員長

では、委員会の総意として、改めて原稿依頼をする。その後の反応によっては、委員会として編集していくという提案があったが良いか。

(「はい」という声あり)

そのように対応する。

(2) その他

○大谷委員長

今後の発行に向けてのスケジュールについて確認しておきたい。

○濱見書記

今日の午後、今修正を加えたものを業者に渡す。

明日、業者から返ってきたものをSide Booksに保存するので、タブレッ

トで確認してほしい。

10日金曜日に、正副委員長と事務局で修正箇所が直っているかどうかを見て校了になる。

17日金曜日に冊子が納品される予定である。

発行日は5月1日、市報の広報はまだと一緒に合わせて4月末に全戸配布される予定である。

○大谷委員長

では、校正作業は以上で終えても良いか。

(「はい」という声あり)

ここで、暫時休憩する。

[10 時 24 分 休憩]

[10 時 39 分 再開]

2 地域井戸端会について

(1) 準備物、段取り

○大谷委員長

事務局から説明をお願いします。

○濱見書記

資料の1、2ページ目は、当日に参加者に配布するレジュメである。今回は、1ページ目の下に、写真撮影についての注意書きを入れている。

留意事項のページについて。昨年とほぼ変わっていないが、「※記録のための録音のため、SNS等に掲載することは原則禁止致します。」という注意事項を赤字で入れている。

準備物と報告書の様式について。1枚目はテーマに沿った意見交換会の報告、2枚目は自由意見の報告、最後のページはアンケートである。

次の資料は、当日の会場、日程、各班のメンバーと割り当てなどの一覧である。各班で会場予約などが全て済んだと聞いている。この日程で進めたいと思う。

○村山主任主事

会場と日時について、各班から電話で聞き取って入力したものもあるため、今一度、予約した日時に間違いがないか確認してほしい。

○大谷委員長

では、まず配布資料や配布物、報告書などについて確認する。

○遠藤委員

報告書について、各常任委員会のメンバーが1人ずつ構成されているが、自分の担当委員会のところのみまとめ、3人がそれぞれ報告書を出すのか。それとも1枚に3人がまとめて書くのか。

○大谷委員長

過去は、3人のうち司会、記録、報告書の役割を決めた。他のグループの内容をあわせて1枚にまとめ、事務局へ提出するというのが基本である。方法は班で決め、まとめる形が望ましい。

○沖田委員

少し話がそれるが、会場によっては参加者が3人など少ないことがある。発表を頼んでも嫌がる参加者もいる。進め方は資料に書いてあるが、無理強いするとうまくいかない。模造紙も過去1回しか使わなかった。テーマを決めていても、そのテーマどおりの話にはなかなかならない。臨機応変に、状況を見ながら進めるのが良い。

○大谷委員長

私も模造紙を使ったことはなく、付箋は使ったことがある。状況に応じて、参加者に満足していただく対応をすること。参加者が少なければ、3つに分けず1つのテーブルでやっても差し支えない。テーマに沿わず言いたいことを言う参加者もいるので、それをしっかり聞くようお願いする。

○岡山副委員長

議会広報広聴委員会は1期目の議員が多いため、前回の踏襲する形をとっている。規定により「議会報告会」を行わなければならないとあり、この地域井戸端会をやっているが、参加人数が減っていているのが現実であり、今後もこのやり方で良いのかは議論が必要である。人を集める方法や参加しやすい方法を、この委員会のメンバーだけでも出し合うのが大切である。漫然と同じ形で続けるのではなく、市民と対話できるより良い方法を考え続ける必要があるため、協力いただきたい。

○大谷委員長

副委員長が言ったとおり、行ってよかったと言えるような会になるよう、よろしくをお願いする。

では、次は調整した日時に間違いがないか確認をお願いする。

○岡本委員

間違いはない。

○戸津川委員

日程は良い。長沢サブセンターの会場長は石見まちづくりセンターの館長が兼ねるのか、みどりかいかんは金城支所の防災自治課で手続を行ったが、会場長は雲城まちづくりセンター長なのかどうか確認がいると思う。

○沖田委員

間違いはない。

○岡山委員

間違いはない。

○大谷委員長

私のところも間違いはない。

○西田一平委員

間違いはない。

○今田委員

間違いない。

○大谷委員長

では、この日程でお願いします。

(2) その他

○大谷委員長

地域井戸端会のその他で何かあるか。

○今田委員

会場を予約した時に、まちづくりセンターから意見をもらったので披露する。せめて地元の議員が来てほしい、地域のガス抜きのみにはせずできなかった理由なども提示してほしい、やっている感しかない、との意見もあった。

○大谷委員長

そのことは、ここだけでなく全議員に共有した方が良い。副委員長が言われたように、今のやり方で良いか、一度見直す必要がある。

○西田一平委員

それは、センター長が言ったのか。

○今田委員

そのとおりである。

○沖田委員

副委員長や今田委員からもあった意見だが、地域井戸端会の在り方は全議員が感じているテーマである。この流れでは、おそらく来年度も前例を踏襲することになる。なので、改善を考えながら今年の地域井戸端会をやると良い。例えば、自由参加ではなく、事業者や市民団体などに出向き、子育て支援、漁業、農業といった各論的な話をしてみることも検討してみてはどうか。

○大谷委員長

大事なことである。常任委員会の取組課題との住み分けも必要になると思うので、お互いが課題として認識しながら取り組めたらと思う。

3 その他

○大谷委員長

議題3、その他についてあるか。

○岡山副委員長

公式LINEについては全協で承認されたため、進める必要がある。事務局との協議の結果、浜田市議会が考える進め方は、参考とした出雲市議会とは内容が少し異なっていた。出雲市議会では、配信は全て事務局が担当し、議員は配信しない形で運用されていた。一方、今回は議員から、はまだ議会だよりminiのような内容を掲載する案も出ている。そのため、業務フローを明確に切り分けなければ、事務局と議

員のどちらが何を担うのかが決まらない状況である。この点を整理せずに進めると、結局、役割分担が不明確になるという問題が生じる。

したがって、再度、班でこの点を協議して明確にした上で、全員に分かりやすく提示するべきである。

○西田一平委員

私が資料を作った段階で、どの部分を議会広報広聴委員会がやるのか事務局がやるのかは、一応資料に入れている。そこをどのようにやるかを議論するよりは、どのように進めていくのか具体的な話をしたいというのが個人的な思いである。出雲市議会にはマニュアルがなかったため、やってはいけないことのガイドラインとして資料を作ったつもりだったので、すぐにでも進めようという気持ちである。

○大谷委員長

まず班の中で、すり合わせ、共有してもらいながら、それを全体に広げるような形で、やる以上は着実に成果が出るよう、綿密な事前準備をしっかりと願います。

その他、何かあるか。

(「なし」という声あり)

では、次回について、事務局から願います。

○村山主任主事

次回の議題は、6月発行の議会だよりmini45号と、公式LINEについて、できればどのような記事載せるのかなど細かい運用を入れた資料を提案する。また、はまだ一日議会も早めに準備するため議題とする。

日時は、正副委員長に確認し、5月8日(金)13時30分からとしたい。

○大谷委員長

皆それで良いか。

(「はい」という声あり)

では、5月8日(金)13時30分からとする。

以上で議会広報広聴委員会を終了する。

[11時15分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

議会広報広聴委員会委員長 大谷 学